

あかるいまち 21

No.1743 2025年8月12日
組合員活動推進課 082-532-1264

	8月	2025年度
組合員ふやし	19人	457人
出資金ふやし	260万円	5,196万円
純増	△207万円	△805万円

食を考えることは、平和を考えること ～理事会社保平和委員会～

7月の社保公開学習会（理事会に設置されている社会保障・平和委員会主催）は7月25日に行われ、猛暑のなか28人の参加がありました。今回のテーマは、「米、このままでは飢える～これで大丈夫なのか日本の食！」というちょっと衝撃的なものでした。講師をお願いしたのは、自らも「1町2反の米づくり、今朝も野菜を市場に出してきた」とおっしゃる黒木義昭さん（元・広島県農協中央会専務理事）でした。



黒木さんは、お話の冒頭で「コメ不足」と「コメの高騰」が社会問題となっていると指摘され、「令和の米騒動」をめぐる議論を紹介しながら「こんなことを言っているのかと思う」「現場を知らずに無責任な発言が横行している」「でたらめな議論に腹を立てている」と現状を告発されました。そのうえで、「戦後3回の『米騒動』が起きている」として、昭和20年代、平成20年代、そして今日の特徴などを詳しく解説されました。今日のコメ不足、コメ価格の急騰の要因としては、2023年の収穫量の下振れ（黒木さんのところでも昨年は30kg袋で205袋収穫できたが、23年度産米は160袋だったそうです。猛暑などが原因のようです）などが指摘されました。インバウンド増（海外からの旅行者などの増加）による消費の拡大、南海トラフ情報による買いだめ需要なども要因として指摘されました。

さらに黒木さんは「何がコメ高騰の原因なのか」と問い、「さまざまな悪玉がつくられている」と指摘され、農協のコメ市場におけるシェアが27%しかないこと、「コメの生産調整」の実際などを紹介して、これらの言説には間違いが多いと強調されました。ここでは、コメ収穫量をめぐる政府統計のあいまいさ、杜撰さも指摘され、参加者からは驚きの声も上がりまし

た。

戦後史も振り返りながら、「なぜ、日本人はコメを食べなくなったのか」に言及されたことは印象的でした。黒木さんは「アメリカの用意周到な戦略」を学校給食との関連なども含めて指摘されるとともに、コメ生産農家の「時給 10 円」という現実も告発され、「コメは安ければいいというものでもない、実感としては5kg 3500 円程度が生産に見合うギリギリのライン」と述べられました。（学習会後にお聞きすると、生産を支え、消費者の生活も考えると政府による「価格保証」「所得補償」が不可欠だとお話しいただきました）

社保委員会では、「コメ問題が多くに関心だが、社保のテーマとしてふさわしいのか」が議論されてきましたが、黒木さんは「コメ問題は農村問題でもある」「コメ、食料の問題は平和の問題」と指摘されました。また、日本の食料自給率が38%である現実も明らかにしながら「食料が自給できない国は独立国家ではない」というフランスのドゴール大統領（当時）の演説なども紹介されたことが印象的でした。

○学習会に参加された方からもたくさんの感想が寄せられました。

- 平成、令和のコメ騒動の要因が理解できました。
- 食べることを大切にすることは、平和と一体だとの話。とてもおもしろく思いました。自給率を高めないといけない、農村の自然を守りたい。
- 米騒動の原因がマスコミや知識のない有識者と言われる人たちにより間違っ伝わっていることを知りました。また、日本人が米食からパン食になった原因がアメリカの戦略だったと知り、びっくりし、なるほどと思いました。生産者、消費者が納得できる米価になるよう国の政策が急務と思います。
- テレビで語られる内容と大きく違う話が聞けて興味深かった。まわりの人とも共有したい。
- 食料問題は平和の問題という問題提起、全体の学習を通じて改めて納得しました。
- 生産者と消費者の分断、マスメディアの流布する情報の真偽、日頃のもやもやがすっきり。

